

活 動 事 例

～ 中越大震災時の避難所（小学校）での炊き出しの活動状況 ～

◎炊き出しの従事者

学校栄養職員、給食調理員（委託業者）、学校職員、PTA、地域住民、ボランティア

◎炊き出しの対象者

避難所の住民、公園避難者、自宅避難者 → 約 300 人

※この地域は、ガスの復旧が遅かったため、地域全体に対する炊き出しを避難所で行っていることを伝える。

◎衛生管理で配慮した点（学校栄養職員が指示した事項）

- ・食材の下処理から配食までの調理の流れを円滑に行うこと。
- ・肉を取り扱う場所は、野菜を取り扱う場所から離れた場所とすること。
- ・肉を取り扱う従事者を限定する（給食調理員のみとすること）。
- ・肉を取り扱う場合は、給食で使用していた使い捨て手袋を使用すること。
- ・ポリ袋を食材の保存用として使用すること。
- ・保冷庫内では、肉とその他の食材を分けて格納すること。
- ・炊き出しの最初の頃は学校給食用の汁椀を使用していたが、衛生面の配慮から使い捨ての容器に変更すること。
- ・調理指導（300人分くらいの大量調理なので、切り方を揃える、食材の調理の順序を工夫する等）

◎経過

日時	市教育委員会の対応等	学 校 の 対 応 等
10月23日(土)		
17:56	(中越大震災発生)	
19:20	●総務課が避難所開設の指示をする。	●転倒した冷蔵庫を起こす。
21:00		●給食室の点検をする。
10月24日(日)		
9:00		●給水車から水を食缶に入れる。
20:30	●総務課が「みそ汁などの炊き出しを校長の裁量で行ってほしい」と要請する。 ●保健給食係が学校給食調理の民間委託業者に炊き出しの協力依頼をする。(学校給食の調理部門を委託しているため)	●PTA会長等の協力を得ながら、食材や器具の調達・職員の作業内容、ボランティアの勧誘等の計画をたてる。
22:50		●電気、水道復旧

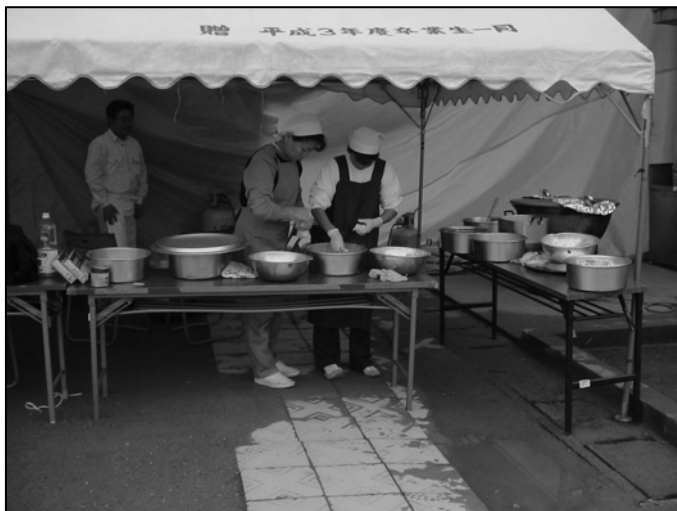
日 時	市教育委員会の対応等	学 校 の 対 応 等
10月25日(月)		
7:00		●炊き出しの準備（家庭科室にて食材の仕込み）をする。 ●教務室脇の非常口に運動会用テントを張り、炊き出し用の釜場を設置する。（校区の町内会より釜とプロパンガスを借りる。：写真1参照）
8:00		●第1回炊き出し（みそ汁）
18:00		●第2回炊き出し（豚汁）
10月26日(火)		
8:00		●第3回炊き出し（豚汁）
18:00		●第4回炊き出し（豚汁）
10月27日(水)		
8:00		●第5回炊き出し（豚汁）
12:00		●第6回炊き出し（すいとん汁：写真2,3参照） *材料がなくなったため、炊き出しを終了する。
10月30日(土)		
10:20	●保健給食係が「食材を購入し再度炊き出しを行って欲しい」と要請をする。	●釜を体育館のグラウンド側非常口に移し、地域のボランティア（避難者）が中心となって運営していくこととする。
16:00		●地域のボランティアとの打合せ ・保冷庫の使い方、汁の材料を決める。 ●食材を発注する。
10月31日(日)		
18:00		●第7回炊き出し（八宝菜）
11月1日(月)		
18:00		●第8回炊き出し（白菜のみそ汁）
11月3日(水)		
9:05		●ガスの復旧
17:30		●第9回炊き出し（麩のみそ汁） *翌日から学校が再開されるため炊き出しを終了する。

(写真1)



※校区の町内会から借りた炊き出しの道具です。

(写真2)



※テントを張って野外で調理しました。
(すいとん汁)

(写真3)



※10月27日(水)は、震度6弱の余震があり、調理を一時中断しましたが、どうにかお昼に間に合いました。